

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年5月26日（水）午後7時05分～8時30分
場 所 和泉地域交流センター 会議室
出席者 和泉小学校区児童・未就学児保護者 11名、報道1名、和泉小中学校長、
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 小学校の再編計画の後に複式学級を解消するというのでよいか。逆に各学年に一人ずつという状況の中、先生とマンツーマンになってしまう。少ない人数で学校運営をしていくことで多少なりメリットはあると思っ
ているが、複式学級を解消してよいのかという疑問がある。どのように考
えているか。

市教委 教師の目が一人一人に行き届く、1時限の中で息の長い発表ができる場
があるといった複式学級の良さはある。しかし、体育の時間や生活科の時
間での意見交換や多人数で交流するといった環境の部分では不十分であり、
そのための解消である。複式学級は1年生を含む場合は8人以下、それ以
外は2学年で16人以下の場合に編成されるため、和泉小学校においては、
複式学級はそのまま残る。

参加者 中学校は、すべての教科で専門教科教員を配置する必要があるとのこと
だが、和泉中学校において再編までの間にこの状況を改善するなど専門教
科教員を配置する考えはあるのか。

市教委 美術、技術、家庭科については免許外教員が教えても大丈夫であるとし
ている。和泉中学校は、音楽の免許を持つ教員が配置されているため、そ
の教員が再編までは配置することはできると考える。CD教材等を使用し
て授業を行うことはできるが、音楽は楽器演奏や歌唱の指導は免許のある
教員が指導することが大切であると考えている。

参加者 再編計画が決まった段階で「結果が決まっているから」となし崩し的に
ならないよう議論は慎重に進めていただきたい。距離的な面でのスクール
バスは部活動の終わりの時間などで保護者が送迎しなければいけないなど、
いろんな点について十分な協議を丁寧に進めていただきたい。また、生ま
れてから高校まで一貫してとあるが、登下校の負担のところで、先日のJ
Rの改廃について高校生はどうするのだという思いがある。小浜市はすぐ

に動いてたが、大野市はまだ動いていない。高校生までというのであれば、通学の部分、ＪＲの部分や地域の部分が再編ありきでなし崩しにならないよう努力をお願いしたい。

市教委

現時点では準備委員会をこのように形成してというようなお示しはしていない。どのような感じかわかるように乾側小学校の例をお伝えさせていただいている。これも今後の協議の中で進めていきたい。一人一人の要望についても、最終的には皆さんの合意をもって着地をしないといけないと考えている。慎重に進めてさせていただきたい。

結果ありきといったご心配は「なさらないでください」と強く思っている。子ども・保護者・地域のことをしっかり胸におきながら丁寧に協議させていただく。

ＪＲの件については、市長も手をこまねているわけではない。昨日の記者会見でも市長がしっかり取り組んでいきたいとお伝えしている。近々、市としても市長が先頭にたって強く要望していく。決して諦めているわけではないことをご理解いただきたい。

参加者

スクールバスについて、和泉地区は範囲が広いことを考慮いただきたい。ドア to ドアとはいかないが、今後、集合場所などが問題になっていくと思う。通学時間が１時間以上とならないようになっているが、距離的な面で時間が延びてしまうことも考えられるため、今後検討するなかで配慮いただきたい。

市教委

スクールバスもどのような形で進めていくのか、ＪＲのこともあるが、いろんな選択肢があるので、どの形が最適なのか地域の方にも聞いていきながら進めていきたい。一昨年、和泉のスクールバスというか地区内の後野と大納の二路線に乗り、実際にかかる時間や乗降場所や歩く距離を体感したうえで、イメージしながら考えてきた。これは他の地区路線や学校のスクールバス等も同じように乗ってきた。しっかり自分で体感し考えて話し合いに臨みたい。

参加者

小学校を残していただけるのでうれしい気持ちと、不安な気持ちがある。現在は中学校、小学校、保育園で校舎を使っているが、この段階でも作業奉仕活動など校舎が広く人出が足りず大変である。中学生がいなくなると更に少ない人数で校舎を管理していかないといけない。地域の人を巻き込んで校舎を使っていくのか、使わなくなった部分の校舎の活用等はどのように考えているのか聞きたい。

市教委

地域交流センターを交流の場として、地区の休日の行事等は地元の子どもとして参加していただくような形で、皆さんと一緒に考えていきたい。和泉地区から違う学校に通うことになっても、地元の子どもたちだという

視点で、今回いただいたご意見も参考にし、やれることは教育委員会も一緒に考えていきたい。

参加者 2ページの子どもの成長過程を踏まえるところで、「小学校期は地域の温かい見守りの中で育て」は地域の中で交流があるためイメージを持ちやすいが「中学校期は、より広い世界の大野市全体で育て」の言葉のイメージがわからない。具体的にはどういう風で大野市全体で中学校の子どもたちに関わっていった成長を促していくのか、イメージを持ちやすいように教えて欲しい。また、資料の表の見方がわからないので教えて欲しい。7ページの中学校の1年生の人数と10ページの小学校の児童数が合わないが、見方があるのか。

市教委 中学校と小学校は成長過程が異なるため、学校に求められる使命が異なるので別に考えていかないといけないだろう、ということが出発点である。地域と対比させた考え方として出させていただいた。地域だと祭りがあったり、交流があったりイメージしやすい。大野市全体でというイベントをするということもあるが、二つの中学校に再編するとなると広いところから通学するいろんな考えや習慣を持った子どもたちがいる。教員もいろんなタイプの人がいる、そういう意味でいろんな人との交流といった意味で広い世界と表現させていただいている。

二点目については、10ページの小学校は今年5月1日の児童数で、7ページの中学校の生徒数は令和3年度については本年度在籍している生徒数である。4年度以降は大野市で生まれた出生数を案分して将来の予測を立てているため、実際の人数と若干の差がある。令和4年度以降は統計上将来の予想として予測値となっているので実数と合わない点をご承知いただきたい。

参加者 地域状況を考えると、令和4年から5年間は和泉中学校の読みとしては実数をあてていただいた方が、今日の出席者にも今後の住民説明会においても資料の信ぴょう性がでて説得力があり、受け入れやすいのではと思う。

市教委 ご意見を踏まえて、もう一度検討させていただきたい。

参加者 今後再編までに不安なことがあればどちらに質問させていただくといいか。教育委員会に直接質問するのがいいか、学校を通じてのほうがいいのか。

市教委 チャンネルはどこでもよい。一番近くに学校があって一番話しやすいのであれば、校長に言ってください。また、教育委員会に電話でも来ていただいてもよい。どんなチャンネルでもしっかり考えていきましょう。

参加者 今回の本題とは関係ないが、乾側小学校の統合式典を見て、違和感があった。皆さんが白ネクタイをしてお祝いしている。乾側の方は祝っている

のかと思った。式典のやり方とかも、乾側の人に聞いたら、祝っているわけでない、なぜ白ネクタイなんだと言う人もいた。市民感情に配慮いただけるといいのかな、と思う。行政としてはおめでとうという式典なのかもしれないが。市民感情からかけ離れているのではと感じた。

市教委 礼服で出席したが、それは礼を失しないという一点である。私たちとしては逆にラフな格好で出席し、そこに違和感を持たれたほうが、申し訳ないという気持ちが強くあった。この点も、お気持ちはよくわかるので今後相談させていただけたらと思う。来賓の方にも平服でお越しく下さいとの案内はさせていただいた。(市長と教育長は礼服で出席した)

市教委 今後も丁寧に対応させていただきたいと考える。質問などあれば、気軽にさせていただきたい。

④閉会のあいさつ(事務局長)

終了後の質問

参加者 入る部活で学校の終わる時間が変わるのか。子どもの送迎などは・・・。

市教委 平日は2時間、休日は3時間というように、活動時間の原則は定めている。実際にスクールバスで通学する生徒が所属する部活には配慮するように伝えている。